

(Daily 日本史) ～大和政権～

【問】 2002 年 学習院大学 文

次の文章を読み、〔 〕内で適切と判断する用語を選び、その符号を解答欄にマークしなさい。

5世紀から6世紀にかけて、大和政権は地方の豪族をつぎつぎに服属させていった。倭王(1)〔イ 興
ロ 済 ハ 讃 ニ 珍 ホ 武〕が中国の(2)〔イ 魏 ロ 呉 ハ 後漢 ニ 宋 ホ 梁〕の皇
帝にたてまつった上表文に、「東は毛人を征すること五十五国、西は衆夷を服すること六十六国」とあ
ることは、その様相の一端を示している。

当時吉備や筑紫には強大な豪族が存在し、6世紀の前半には、筑紫国造の磐井が(3)〔イ 伽耶
ロ 百済 ハ 高句麗 ニ 新羅 ホ 渤海〕と結んで反乱をおこしたといわれる。しかし大和政権は
このような地方豪族の抵抗を抑え、各地に支配の拠点としての(4)〔イ 郡家 ロ 食封 ハ 田荘
ニ 部曲 ホ 屯倉〕を置くなどして、支配を進めていった。

6世紀の後半には、大和政権を構成する皇族や豪族の間の争いが激しくなった。
蘇我馬子が(5)〔イ 有間皇子 ロ 大伴金村 ハ 物部尾輿 ニ 物部守屋 ホ 山背大兄王〕を滅ぼ
した事件などは、その典型である。
そのような事件は7世紀に入っても続いたが、(6)〔イ 607 ロ 645 ハ 663 ニ 672 ホ 690〕
年の壬申の乱を最後に収まり、その後は天武・持統両天皇のもとで、律令国家の建設が進められた。

(7)〔イ 607 ロ 645 ハ 663 ニ 672 ホ 690〕年の白村江の戦いで唐に敗れた日本は、辺境
防衛のため(8)〔イ 秋田城 ロ 胆沢城 ハ 大野城 ニ 雄勝城 ホ 多賀城〕などを築き、また守
備の兵として(9)〔イ 衛士 ロ 健児 ハ 防人 ニ 資人 ホ 鎮兵〕を置いた。この兵に徴発され
たのは、おもに(10)〔イ 蝦夷 ロ 畿内 ハ 西国 ニ 東国 ホ 渡来系〕の人々であった。律令
制のもとでは全国の成年男子から兵士が徴発され、軍団で訓練をうけた。軍団の武力は蝦夷・隼人の反
乱や、(11)〔イ 729 ロ 740 ハ 757 ニ 764 ホ 770〕年におこった藤原広嗣の乱などのおりに
動員されたが、8世紀の終わりには兵士の弱体化が著しくなり、軍団制は衰退していった。

この頃には、蝦夷の反乱の鎮圧が朝廷の重要な課題となった。蝦夷征討の将軍に登用された坂上田村
麻呂は、飛鳥地方に本拠をもつ渡来系の氏族である(12)〔イ 西文氏 ロ 紀氏 ハ 秦氏 ニ 平群
氏 ホ 東漢氏〕の出身であった。田村麻呂は蝦夷の反乱を鎮め、あらたに(13)〔イ 秋田城
ロ 胆沢城 ハ 大野城 ニ 雄勝城 ホ 多賀城〕などを築いて東北地方の支配を固めた。

9世紀以降、律令制の衰退によって地方の治安が乱れたので、朝廷は諸国に(14)〔イ 押領使 ロ 勘解由使 ハ 巡察使 ニ 節度使 ホ 問民苦使〕を置くなどして治安の維持に努めた。ことに治安状況の悪い関東地方には、武力にすぐれた貴族を国司に任じ、治安の維持に当たらせた。彼らはその地方の豪族の娘と結婚するなどして土着し、大きな勢力をもつようになった。(15)〔イ 866 ロ 939 ハ 969 ニ 1028 ホ 1051〕年におこった平将門の乱は、このような豪族相互の対立から発展した反乱であった。朝廷は諸国から兵を動員し、将軍に引率させて現地に赴かせたが、(16)〔イ 平忠常 ロ 藤原秀郷 ハ 藤原元命 ニ 源満仲 ホ 源頼信〕など、現地の豪族の手で乱は鎮圧された。

11世紀の初め、刀伊が九州北部に襲来したおり、(17)〔イ 平忠盛 ロ 平正盛 ハ 藤原伊周 ニ 藤原隆家 ホ 源経基〕の指揮のもとでそれを撃退したのも、九州地方の在地の武士であった。

11世紀の末、院政を開始した白河上皇は、(18)〔イ 検非違使 ロ 西面の武士 ハ 滝口の武者 ニ 北面の武士 ホ 武者所〕を新設するなどして武力の充実に努めた。やがて院と結んだ平氏が政権を掌握するが、平氏がその武力の基盤としたのは主として(19)〔イ 奥州 ロ 西国 ハ 東国 ニ 南都北嶺 ホ 北陸〕の武士であった。

この後(20)〔イ 1159 ロ 1180 ハ 1185 ニ 1189 ホ 1192〕年、源頼朝が決起することにより、新しい武家の時代が開かれることになる。

【解答】

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| (1) ホ | (2) ニ | (3) ニ | (4) ホ | (5) ニ |
| (6) ニ | (7) ハ | (8) ハ | (9) ハ | (10) ニ |
| (11) ロ | (12) ホ | (13) ロ | (14) イ | (15) ロ |
| (16) ロ | (17) ニ | (18) ニ | (19) ロ | (20) ロ |